

韓国の鉄道車両における妊産婦配慮席の有効性の評価

筑波大学 医学医療系 准教授 水野 智美
 筑波大学 医学医療系 教授 徳田 克己
 韓国・全南大学 教育学部 教授 趙 洪仲

1. はじめに

韓国の鉄道車両には、妊産婦配慮席（以後、妊婦席）が設置されている（写真1、2）。水野・西館・西村・徳田（2019）は、2018年11月および2019年3月の時点で、ソウル市内、大田市内の鉄道において、妊婦席がどのように利用されているのかを観察した。その結果、車内の空席が目立つ場合を除き、妊婦席を「迷惑利用」している（妊婦以外の方が利用している）割合が高いことを確認した。2019年には、韓国では子育て支援の観点から、妊婦支援にさらなる重点が置かれるようになってきた。妊婦には、以前から妊婦タグ（写真3）を配布し、周囲から配慮を受けられるようにしていた。妊婦席に関しても、啓発が盛んに行われるようになり、地下鉄構内や電車内で啓発動画が流されるようになった。

そこで本研究では、2019年秋以降において、韓国内の妊婦席の利用状況を観察し、シートの色や表示、対策等が「迷惑利用」防止にどのような効果を有しているのかについて明らかにしたいと考えた。



写真1 他のシートと区別できるようにシートの色がピンクで、足元と壁に妊婦席であることが表示されている（大田地下鉄1号線）



写真2 妊婦席にぬいぐるみを設置している（大田地下鉄1号線）



写真3 妊婦に配布されている妊婦タグ

2. 妊婦席の空席状況に関する観察調査

(1) 目的

妊婦席の対策によって、空席状況、迷惑利用の状況に違いがあるかどうかを観察・調査を行うこと
によって明らかにする。また水野ら（2019）の結果と比較し、啓発効果を確認する。

(2) 方法

①計測場所

ソウル地下鉄（1号線、2号線、5号線）、ソウル空港鉄道、仁川地下鉄1号線、釜山地下鉄（1号線、
2号線、3号線、4号線）、釜山軽軌鉄道、大田地下鉄1号線、大邱地下鉄（1号線、2号線、3号線）
で計測した。

②調査方法

妊婦席の設置環境の違い（足元に妊婦席であることを示す表示があるか、腰掛の色が他のシート
と異なっているか、ぬいぐるみを設置しているか）を明らかにするとともに、調査時間のうち、ど
の程度、空席の状態であったのか、妊婦席を利用しているのはどのような人か、周囲の混雑はどの
程度であったか等を観察した。調査時期は、ソウルは2020年1～2月、釜山、大田、大邱は2019
年11月であった。

(3) 結果と考察

表1に本調査における妊婦席の設置環境と空席率を、表2に水野ら（2019）における設置環境と空
席率を示した。また、表3に本調査における妊婦席を利用していた人（全員が迷惑利用をした人）の
内訳を示した。

表1より、足元に妊婦席であることを示す表示があり、腰掛がピンク色のシートになっている席の
方が、空席率が高い傾向があった。逆に、足元の表示がなく、腰掛の色が他と同色であった釜山地下
鉄1号線、2号線、3号線はほとんどの調査時間で迷惑利用されていた。

また、一般座席の空席から埋まり、妊婦席のみが空いていることの方が多かった（写真4）。ぬいぐ
るみの有無に関しては、特に大きな効果は見られなかった。しかも、ぬいぐるみを設置している妊婦
席を利用する場合、乗客はぬいぐるみを抱えて座る（写真5）、ぬいぐるみをお尻の下に敷いて座る、
浅めに座って背中と壁の間にぬいぐるみを挟む必要があり、実際に妊婦が座る際にもぬいぐるみが邪
魔になり、有効な手段とは言えない。

表1と表2を比べると、全体的に本調査の方が水野ら（2019）が実施した時よりも、多少、空席率
が高くなっていた。

表3より、迷惑利用をしている人の中では30～60代女性の割合が高かった。20代以下と思われる
男女も迷惑利用をしている者が多く、若い世代に対する啓発も十分ではなく、今後さらに啓発を進め
ていく必要があると考えられる。

表1 本調査における妊婦席の設置環境と空席率

路線名	足元表示の有無	腰掛の色	ぬいぐるみの有無	乗車時間 (min)	空席時間 (min)	空席率
仁川1号線	あり	他と同色	なし	42	34	81%
大邱2号線	あり	ピンク	なし	16	12	75%
ソウル5号線	なし	ピンク	なし	44	32	73%
ソウル2号線	あり	ピンク	なし	88	51	58%
ソウル空港鉄道	あり	ピンク	あり	159	87	55%
釜山4号線	なし	他と同色	なし	127	62	49%
釜山軽軌鉄道	あり	ピンク	なし	74	30	41%
大邱3号線	あり	ピンク	なし	144	50	35%
大邱1号線	あり	ピンク	なし	152	49	32%
大田1号線	あり	ピンク	あり	156	43	28%
ソウル1号線	あり	他と同色	なし	78	19	24%
釜山3号線	なし	他と同色	なし	96	7	7%
釜山2号線	なし	他と同色	なし	114	2	2%
釜山1号線	なし	他と同色	なし	95	0	0%

表2 水野ら（2019）における妊婦席の設置環境と空席率

路線名	足元表示の有無	腰掛の色	ぬいぐるみの有無	乗車時間 (min)	空席時間 (min)	空席率
ソウル5号線	なし	ピンク	なし	138	69	50%
大田1号線	あり	ピンク	あり	116	53	46%
ソウル空港鉄道	あり	ピンク	あり	162	65	40%
ソウル3号線	あり	ピンク	なし	46	15	33%
ソウル2号線	あり	ピンク	なし	1138	251	22%
ソウル4号線	あり	他と同色	なし	306	30	10%
ソウル新盆唐線	なし	他と同色	なし	66	0	0

表3 本調査における妊婦席を利用していた人の内訳

N=87

10～20代と思われる女性（妊婦ではない）	15%	(13人)
10～20代と思われる男性	5%	(4人)
30～60代と思われる女性	40%	(35人)
30～60代と思われる男性	21%	(18人)
70代以上と思われる高齢者	18%	(16人)
小学生以下の子ども	1%	(1人)
妊婦	0	



写真4 妊婦席のみ空いている
(ソウル地下鉄2号線)



写真5 めいぐるみを抱えて座る女性
(大田地下鉄1号線)

3. 妊婦に対して席を譲る行為の観察調査

(1) 目的

妊婦席を迷惑利用している人が、妊婦が目の前にいる場合にどのように行動するかを明らかにする。

(2) 方法

①計測場所

釜山地下鉄1号線および大田地下鉄1号線

②計測方法

釜山地下鉄1号線および大田地下鉄1号線において、妊婦席を利用している妊婦ではない人、すなわち迷惑利用をしている人（釜山地下鉄1号線10名、大田地下鉄1号線10名）の前に妊婦が立った場合、妊婦に気づくかどうか、また席を譲るかどうかを観察した。

なお、万が一の危険を考慮して、実際の妊婦ではなく、お腹に詰め物をして妊婦に見立てた。なお妊婦役には、写真9の妊婦タグをつけてもらった。調査時期は2019年11月。

(3) 結果と考察

釜山地下鉄1号線の結果を表4に、大田地下鉄1号線の結果を表5に示した。釜山では、寝ていたために妊婦の存在に気づかない人が2名いた。それ以外の8名のうちの3名のみが席を譲った。しかも、そのうちの2名は他の人から席を譲るように促されて、仕方なく席を譲っている状況であった。

大田地下鉄1号線においては、妊婦席に座っていた人の全員（10名）が妊婦に気づいたが、そのうちの半数（5名）のみが席を譲ったという結果であった。20代の若い女性が妊婦の存在に気づいていながらも譲らなかったり、妊婦席の隣の席に座って荷物を妊婦席に乗せていた人が妊婦の存在に気づきながらも荷物をどけようとしなかったことが特に残念であった。

表4 釜山地下鉄1号線（ぬいぐるみの設置のない妊婦席）における妊婦に席を譲る行為

妊婦席に座っていた人	妊婦への気づき	席を譲ったか	状況
30～40代男性	○	×	妊婦タグに気づき、一瞬、妊婦を見るが、そのままスマホをやり続ける
60代後半女性	○	×	他の空いている席に行くように言い、そのまま座る
50～60代男性	×	×	寝ていて気付かない
20代男性	○	×	カップルで隣同士に座っている。カップル共に妊婦に気づき、妊婦と目が合うが、そのまま座り続ける
小学校高学年女児	○	○	妊婦の隣に立っていた50代ぐらいの女性（女児とは無関係の人物）に促され、仕方なく席を譲る
50～60代男性	○	×	妊婦タグに気づき、妊婦と目が合うが、そのまま座る
70代後半女性	×	×	寝ていて気付かない
60代男性	○	○	妊婦タグに気づくが、気づかないふりをして2分程度、逡巡した後、席を譲る
60代男性	○	○	最初、妊婦タグに気づくが、気づかないふりをしていた。しかし、隣に座っていた妻に促され、仕方なく席を譲る
50代女性	○	×	妊婦タグに気づくが、気づいていないふりをする

表5 大田地下鉄1号線（ぬいぐるみが設置されている妊婦席）における妊婦に席を譲る行為

妊婦席に座っていた人	妊婦への気づき	席を譲ったか	状況
30代女性 (妊婦ではない)	○	○	妊婦タグに気づき、妊婦タグを何度も見ながら、仕方がなく席を譲る
60代女性 (の荷物)	○	×	妊婦席に荷物を置き、その隣に自分が座っていた。妊婦タグに気づくが、荷物をどけようとしな
60代女性	○	○	妊婦が来たことに気づき、席を譲る
70代女性	○	×	女性二人組で妊婦席とその隣の席に座って話をしている。二人とも妊婦タグに気づいており、何度も妊婦と目が合うが、席を譲ろうとしな
70代女性	○	○	妊婦タグに気づき、隣の席が空いていたため、隣にずれて、譲る
20代女性 (妊婦ではない)	○	×	妊婦タグに気づくが、そのまま座り続けた
70代女性	○	×	妊婦タグに気づくが、そのまま座り続けた
幼児	○	○	妊婦席と隣り合う2席、併せて3席に、母親と子ども2人が座っていた。母親が妊婦に気づき、子どもに詰めて座るように促した。妊婦席を妊婦にゆずり、その隣の2席を母子3人がつめて座った
60代男性	○	○	妊婦タグに気づき、すぐに席を譲った
50代女性	○	×	女性二人組で妊婦席とその隣の席に座って話をしている。二人とも妊婦タグに気づくが、席を譲れない。

参考文献

- 1) 川村竜之介・谷口綾子・大森宣暁・谷口守：(2015) 公共交通車内における協力行動と規範に関する国際比較、土木学会論文集 D3 (土木計画学)、71 (5)、I511-521.
- 2) 水野智美・西館有沙・西村実穂・徳田克己：(2019) 韓国の鉄道における妊婦席の使用状況、日本特殊教育学会第57回大会発表論文集、P9-41.
- 3) 押越良介・坂入整：(2014) 優先席に関する調査研究、JR East Technical review、47、pp.13-18.